

水俣市立水俣第一中学校 (熊本県)

所在地：熊本県水俣市古城1-14-1

電話：0966-63-2990

環境首都に誕生したエコスクール

建築後36年が経過した熊本県水俣市の水俣第一中学校で、施設の耐震補強とエコ改修工事が行われた。工事が行われた平成23年度は折しも水俣市の中学校再編が行われた初年度にあたり、今回の施設整備は新しい水俣第一中学校の新しい歴史の1頁目が刻まれたといえるだろう。



改修された管理・普通教室棟南側外観。1階外壁にみえる耐震補強のフレーム（エコフレーム）で耐力度を確保して、2、3階は、植物による緑のカーテンで西日を防ぐ。校地の随所に樹木や緑が植えられた緑の学校は、湿度がこもりやすい環境にもあり、改修は、光・熱・風がポイントとなった※



庇をガラスに交換して明るくなったといわれている昇降口。緑のカーテンは、今年度はユウガオとゴーヤを植えている。その比較も学びのテーマにできる



改修された普通教室棟廊下。木材だけでなく壁のイグサクロスの調湿機能もあって、これまで悩みの種だった結露が、改修後は全くなくなったという



普通教室棟と特別教室棟の間に増築されたエコライブラリー。渡り廊下の下になる右端には、地域コミュニティが活動するために直接出入りできる入口もつくりされている。また、奥の普通教室棟北側の壁面には、新しく取付られたナイトパーズ用のガラリを確認できる



増築した空間に引越した学校図書館はエコライブラリーと名付けられた。図書館としてだけでなく、環境学習の場としても既に活用されているが、市民の活動、そして学校と市民の連携の拠点として開放することも計画されている

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2012年8月号

つくば市立小中一貫校春日学園

(春日小学校・春日中学校：茨城県)

所在地：茨城県つくば市春日二丁目47番地

電話：029-856-3110

子ども達の発達段階に合せ、
連続して教育する未来志向の小中一貫教育校

茨城県つくば市では、平成24年度から市内の中学校区を単位とする小中一貫教育を展開。春日学園はそれに合わせるように今年度開校した新設の施設一体型小中一貫教育校である。



東側の正面アプローチからみえるのは管理・特別教室棟。コンクリートを基調にした外観は、アクセントのようにガラス仕上の階段室が換気塔を兼ねてつくられて、校舎にシンボル性を持たせている※



間仕切りを設けず、吹抜けも採用して整備した開放的な学校図書館。やさしい光の注ぐ、子ども達が落ち着ける空間に仕上げられている



見通しをよくした校内は、安全だけでなく児童生徒が他学級・学年の活動を目にでき、自己の興味関心を広げる役割も持っている※



コンピュータ教室。端末はシンクライアント方式で整備され、グループ学習ができる机配置。ディスプレイ部をキーボードから取外して使うこともできる



管理・特別教室棟から普通教室棟をみる。ブリッジとふれあいテラスを介してつながっている様子がよくわかる

●詳細は「月刊スクールアムニティ」2012年10月号

中央区立中央小学校・中央幼稚園(東京都)

所在地：東京都中央区湊 1-4-1

電話：03-3551-0565 (小学校)・4498 (幼稚園)

地域とともに、地域に融合する子ども達と地域の学校

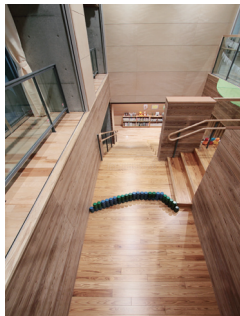
校舎の老朽化などから改築計画の進められていた東京都中央区の中央小学校新校舎が完成した。木と緑に彩られた学舎は、新しい時代の学校施設を象徴するような印象をみるものに与えている。



南東側外観。1階に水泳プール、3階に体育館、屋上に校庭を確保し、敷地いっぱいを使って施設を整備した



施設は周囲に木製のデッキやテラスがめぐりこまれているが、東側の見晴らしデッキに、各階をつなぐ外階段がつけられている



1階から4階をつなぐ建物中央の大階段はステップギャラリーと名づけられた。デンなどを各所に配置して、児童が転落しないよう配慮



教室はすべてつなげず、2教室ごとに屋外の自然観察テラスを挟みこんでいるが、校舎内は少人数指導など多目的に使える教室として整備



小学校界隈。トップライトから差し込む光もあってとても明るくつづらけている。右に延びるのが各室をつなぐ小学校のメインストリート



屋根が架けられたことで利用が天候に左右されなくなった5階の校庭

●詳細は「月刊スクールアムニティ」2012年12月号

三好市立東祖谷小・中学校(徳島県)

所在地：徳島県三好市東祖谷下瀬12-1
電 話：0883-88-2216

日本の原風景を色濃く残す四国・徳島の三好市東祖谷に、地域産の三好杉を活用した木の香りが子ども達を包み、地域の景観にも調和する木造校舎



木造を主張する中央階段



満天の星空と連なる山。自然の中に調和する木造校舎

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2013年1月号

設計監理：株式会社平島弘之+ TEAM28

施工：藤崎建設・尾本住建JV（一期工事・建築、外構）

杉戸町立泉保育園・泉児童館 泉子育て支援センター（埼玉県）

所在地：埼玉県北葛飾郡杉戸町宮前75-1
電 話：0480-38-0621

埼玉県産のスギを主に、オール埼玉県産材を材料につくりあげた保育園舎が埼玉県東部の杉戸町に完成した。児童館と子育て支援センターとの一体化施設でもある。



遊戯室兼食堂



園舎は木、園庭は芝生で整備された新しい子育ての環境

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2013年1月号

設計：佐藤設計事務所（構造）

施工：株式会社島村工業（建築）

伊達市立保原小学校(福島県)

所在地：福島県伊達市保原町字弥生町15
電話：024-575-3281

震災後初の福島北部に完成した子ども達の学びの空間と地域性を重視するニュースクール

学校は、子ども達の学習と生活の場であると同時に、近年は地域施設としての機能も求められる。保原小学校は、独自の「スクールコミュニティ」を実現した学校。



正門。校舎校庭側周囲は、子ども達、地域の人々のコリドーとなっている。中高学年棟は、スカイコリドーとして、周辺のパノラマが遠望できる



全景。手前、平屋建ての低学年棟、専用中庭を設ける。低学年用・25m水泳プール2機。体育館、3階建ての中高学年、特別教室、管理諸室、地域施設、講堂。右2棟、児童クラブ等、子育て支援棟



防球ネットで安全性を確保しているスカイコリドー



高学年のオープンスペース。木製ルーバー間仕切りが柔軟な設えて、床もバリアフリー仕様



中高学年棟の吹抜けのステップフロアは、シアターと名称される集会、児童発表会など多目的に使用するシアター



講堂。学校行事、地域集会などに使用する。音響性能も充実しているので、コンサート活動もできる「スクールコミュニティ」中心施設でもある

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2013年2月号

設計：大野秀敏＋吉田明弘（株式会社アブルデザインワークショップ）

豊島区立西池袋中学校(東京都)

所在地：東京都豊島区西池袋4丁目7-1
電話：03-3986-5427

区立学校の適正化を考慮して誕生した中学校

区立学校施設の教育環境を適切なものとするための改築計画が東京都豊島区で進められている。その最初の学校として取組まれた区西部の西池袋中学校。四方を住宅地に囲まれた中に誕生したのは、災害時の拠点ともなる、緑に包まれた新しい学校の姿であった。



グラウンド側からみる新校舎。コンクリートとアースカラーの建物に黄色の映える落ち着いたたずまい。校舎手前、グラウンド左端には災害対策用のマンホールトイレや井戸を整備、登下校は反対側のグラウンド右側に正門が設けられている



緑の絨毯のような屋上緑化の芝生。自動灌水システムを採用して、断熱・保温効果も期待※



3階屋上の緑化。ホールからよくみえる目に優しい憩いの空間※



屋上に設置された太陽光発電パネル。発電容量は40kWで、状況は1階ホールのモニターで確認できる



採光と通風の役割を担っている光庭、ウッドデッキ敷



校舎の角に配置された、2方向に窓を設けた明るい学校図書館。隣にコンピュータを整備した学習センターも整備されている



校舎内は木材をふんだんに使って、落ち着きのあるあたたかい空間がつけられている

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2013年2月号

学校施設づくりセミナー&見学会／特別開催版掲載校

東京工業大学グリーンヒルズ 1号館 (環境エネルギーイノベーション棟)

ゼロ電力実証教育研究棟の整備

—60%以上のCO₂排出量を削減して
電力を自給自足する先進エネルギー設備—



南側。運動場より全景を遠望



西側より建物を望む。壁面に太陽光パネル



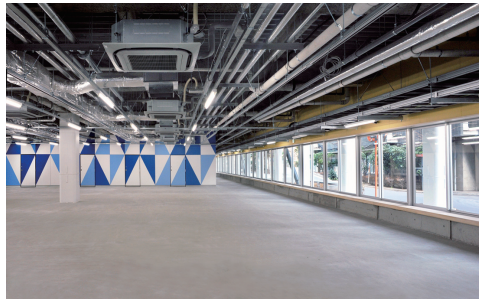
ソーラーエンヴェロップと建物を離して、ソーラーコリドーからの通風を確保
ソーラーエンヴェロップと南側太陽光パネルを見上げる



屋上設置の太陽光パネル



イチヨウ並木も保存して緑化



1階多目的ホール。右：窓側の木製ベンチ

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2012年11月号

栃木県立宇都宮工業高等学校(栃木県)

所在地：栃木県宇都宮市雀宮町52番／電話：028-678-6500

栃木県のものづくりを支える工業教育の拠点が完成

栃木県立宇都宮工業高等学校が、県の工業教育の拠点校として新たなスタートを切った。

校名やこれまでの伝統を受け継ぎつつも、新たな校地に最新の環境を整え、新時代の人材育成に乗り出す。



正門からの西側外観。左が普通教室棟、右が管理・特別教室棟。植え込みに据えられた校章を目にし、生徒は正面の昇降口に向かう



グラウンド側からみる管理・特別教室棟



管理・特別教室棟3階廊下。2階吹抜けの建物中央から採光することで明るい校舎を実現



建築デザイン系実習棟の軸組・建築施工実習室。2階吹抜けとして、2階建の住宅をつくることのできる空間を確保した



普通教室棟1階の大講義室。340名収容可能



第一体育館外観(南西側)

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2012年4月号

北海道小樽高等支援学校(北海道)

所在地：北海道小樽市銭函1丁目95番1、95番3／電話：0134-61-3400

キャリア教育を見据えた特色ある支援学校の誕生

キャリア教育の視点を採り入れたカリキュラム編成を行っている小樽高等特別支援学校が、新しくつくられた校舎での教育活動に励んでいる。



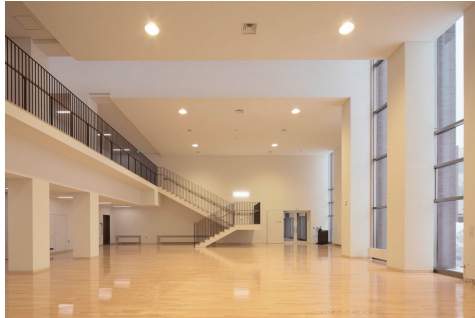
校舎棟前庭（南西側）。3棟の校舎を渡り廊下でつなぎ一体感を形成



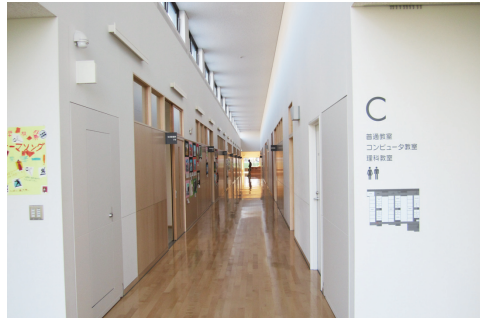
校舎棟の南側のスペースと渡り廊下でつくられたゾーン。地域開放を視野に入れてガラス仕上で、カフェやギャラリーなど人が集まるエリアとした



ギャラリーには太陽光発電システムの表示パネルも置かれている



校舎棟と寄宿舎等をつなぐ場所につくられた吹抜けの多目的ホール



校舎棟の教室前廊下。中廊下にハイサイドライトを取付けて明るさを確保

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2012年5月号

東京・千代田区立日比谷図書文化館(旧都立日比谷図書館)

東京都心のオアシス日比谷公園（日比谷の森）に新生

リニューアルで見事によみがえった施設



東側外観



北側外観



図書総合カウンター（2F）



日比谷コンベンションホール(大ホール・BF)



図書フロアと閲覧席(2F)



レストランLibrary Dining HIBIYA（ライブラリーダイニング日比谷・BF）

●詳細は「月刊スクールアメニティ」2012年3月号

設計監理：保坂陽一郎建築研究所（建築）

施工：大林組・久保工建設JV（建築）